

けっこうむずかしい！

# 「しょうきのだし」つくりかた

## 【準備】

「しょうきのだし」を印刷します。すこしかための紙がおすすめです。パーツが多いので、別紙の「パーツごあんない」も見てくださいね。

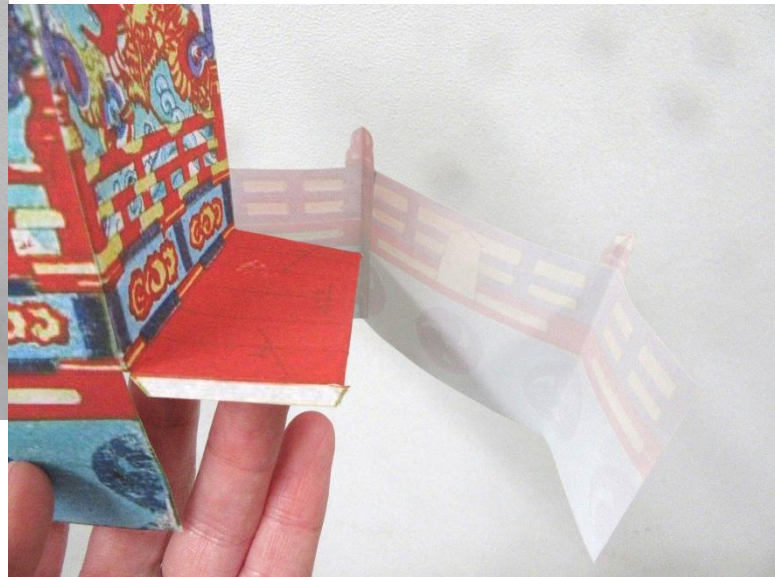
## 【だし本体の組み立て】

だし本体にあたる部分を切り取ります。パーツは3つに分かれます。「だし右側・だし後ろ・だし左側」のパーツを、それぞれ折れ線にそって山折りにしていきます。

「舞台左側・舞台正面」のパーツも、折れ線にそって山折りにしていきます。

だし正面の左右ののりしろを、それぞれだし右側・だし左側のはしに貼り付けます。このとき、まだ舞台ののりしろ(■)にはなにもつけません。

舞台左側の近くののりしろ(●●)と、だし左側の近くにあるのりしろ(●●)とを貼り合わせます。



(●●)の貼り合わせまでおわったところ

舞台ののりしろ(■)を囲むかたちで、画像のように貼り付けます。  
さいごに、舞台正面の近くののりしろ(●)と、だし右側近くののりしろ(●)を貼り合わせます。くずれるのが心配なときは、テープなどで補強すると頑丈になります。



次に、舞台の飾りつけです。人①・人②・タイコを切り取ります。





舞台ののりしろ(★1)と、人①ののりしろ(★1)を貼り合わせます。  
舞台ののりしろ(★2)と、人②ののりしろ(★2)を貼り合わせます。  
舞台ののりしろ(★3)と、タイコののりしろ(★3)を貼り合わせます。

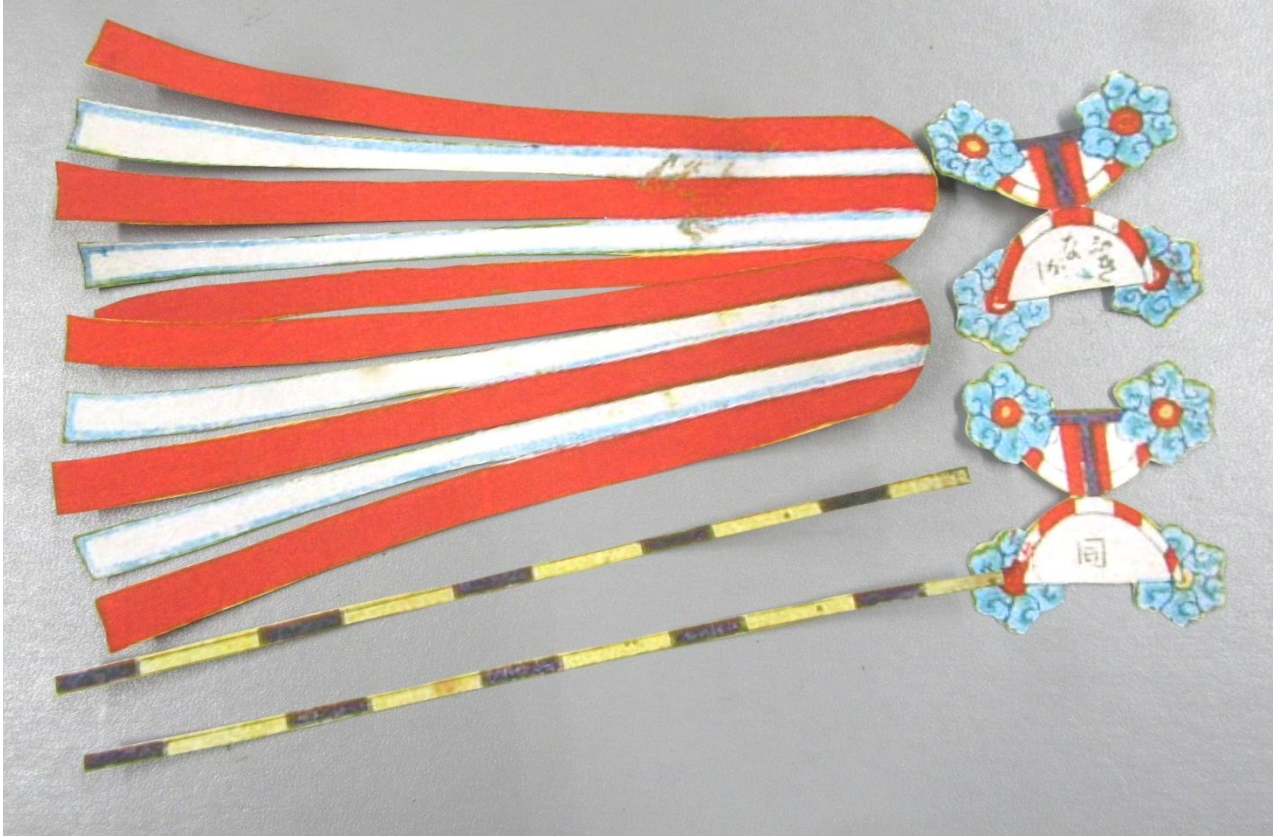


これでだし本体は完成です！

太鼓をたたく人たちを見ると、すでに少し立体感があります。

【かざりの組み立てーふきながし】 ★おなじものを2本つくります。  
ふきながし・ふきながしの棒・ふきながしのかざり①・ふきながしのかざり②を切り取ります。

(画像は、ふきながしのかざり②が必要なことを知らなかったときに撮ったものです。)



ふきながしの棒をふきながしのかざり①にはさみこみ、のり付けします。





ふきながしのかざり①ののりしろ(♪)にふきながしを貼り付けます。



かざりのてっぺんを、ふきながしのかざり②で少しはさんで、のり付けします。

これで、だしのかざりのひとつめが完成！



【かざりの組み立てーせいりゅうとう】

せいりゅうとうの刃・せいりゅうとうの柄を切り取ります。

(先に半分に折ってから、うらおもて同時に切った方が、きれいにできると思います。)



せいりゅうとうの刃を折れ線にそって半分に折り、のり付けします。

せいりゅうとうの刃を、せいりゅうとうの柄に差し込むように置きます。



せいりゅうとうの柄も折れ線にそって半分に折り、のり付けします。



せいりゅうとうの完成！！これは鍾馗の武器になります。



# 【かざりの組み立てー鍾馗】

鍾馗を切り取ります。これも、先に半分に折ってから、うらおもて同時に切った方が、きれいにできると思います。



折れ線にそって半分に折り、のり付けします。



／完成！＼

【だしのかざりつけ】  
つくったかざりです。↓



鍾馗を、だし本体の上部に貼り付けます。  
画像では真ん中あたりに貼りましたが、前の方でも、後ろの方でも、好きなところに貼ってください。





鍾馗にせいりゅうとうを持たせます。テープを使うと安定します。



最後に、ふきながしを好きなところに貼り付けて立てます。  
ふきながしも、テープを使うと安定します。

このとき、ふきながしの柄は紙だけで作るとフニャフニャして自立しないことが分かったので、テープをぐるぐるに巻いて補強しています。竹串や割りばしを使うのが良いと思います。





# ＼完成！！／ しょうきのだし



まえから



うしろから

この「つくりかた」はあくまで一例です。どんどんアレンジして、自分だけのすごくカッコいい「しょうきのだし」をつくってください！